

彰顕規子 俳句・短歌全国大会



第46回 全国俳句大会 特選52句

募集句

稲畑 汀子 選

蚊帳吊りてまたひと騒ぎありにけり
小菅 暢子(東京都)
蝌蚪の紐解け村中の子ら動く
このの もとよし(高知県)
何事もなき日の薔薇を剪りにけり
綾野 静恵(岡山県)
障子貼り替へても暗き仏間かな
稲井 夏炉(西条市)
山門といふ薫風の出入口
長谷川 雅男(松山市)

田島 和生 選

来島の渦へ渦へと飛ぶ落花
真木 伸子(今治市)
学校の声よく聞こえ松手入
竹田 香代(松山市)
砂浜に海亀のあと夜の秋
松村 節子(大阪府)
漆喰に水禍の跡のしるきかな
中野 はつえ(兵庫県)



古賀しづれ 選

奥祖谷の雨したたかや洗鯉
河野 照子(広島県)
草刈る手休めて送る村の葬
高杉 杜詩花(北海道)
歴史とは勝者の記録平家葛
長谷川 瞳(東京都)
この街にこの城のある若葉かな
近藤 美代子(松山市)
五十階てふ秋天の中にある
山田 天(大阪府)
青田風村を大きく見せてをり
渡辺 孝子(西予市)

当日句

稲畑 汀子 選

買ひし墓地花十葉に預けをく
丸山 幸恵(内子町)
同姓の山家七軒干大根
古賀 勇理央(愛知県)
秋出水米倉にまで及びけり
尾崎 孝子(四国中央市)
地に足を降ろして終る松手入
長谷川 雅男(松山市)
秋茄子や何時も畑に母のゐて
丹下 綾子(松山市)

坂本 謙二 選

送り火の消えぬ門扉を鎖しある
門屋 千鶴子(松山市)
村営のバスが人待つ稲の秋
中山 麻子(松山市)
松手入松の姿のあらはるる
池川 紀子(東温市)

高石 幸平 選

○喜寿米寿卒寿白寿の踊りけり
榎部 天思(松山市)
点字よむ命の指の汗を拭く
菊池 ただのり(松山市)
○地に足を降ろして終る松手入
長谷川 雅男(松山市)

福谷 俊子 選

水引の一穂ゆるる奥比叡
対尾 冴子(香川県)

高橋 淑子 選

ピルのあはひより仰ぐ冬空方形に
区切られて淡く夕茜する
橘 宥貴子(埼玉県)

河村 昭夫 選

雪深き限界集落春とほし
タイガーマスクはここには来ない
木村 桂子(山口県)

吉田 みる 選

空蟬は枇杷の葉裏にとどまりて
生きぬるものは鳴きてとびたつ
妹尾 寛子(岡山県)

第29回 全国短歌大会 特選10首

秋葉 四郎 選

伊予灘の朝霧の中一對の白子漁船のエンジン響く
井上 弘(松山市)
通学の子らの自転車あふれるをり
今日より無人となりたる駅に
佐々木 加代子(今治市)
原発の事故の取材に子が行ける
被災地今日も余震に揺るる
高橋 征子(新居浜市)

三好 けい子 選

原子炉の終るともなき崩壊に
水棺の文字おぞましきかな
高井 陽子(松山市)

浅野 次郎 選

顔あかき雉がツツツと過ぎりたり
土手にこもれる靄を揺らせて
山本 美知子(西条市)
顔あかき雉がツツツと過ぎりたり
土手にこもれる靄を揺らせて
山本 美知子(西条市)
ゴン狐が顔を出しそなた墓原に
彼岸日和の煙があがる
戸田 紀子(東京都)

尾形 冴子 選

失いしもの多くとも繰り返す
少女の言葉海は悪くない
千葉 育子(青森県)

阪本 謙二 選

渋滞の先頭を行く稲車
前田 壽子(石川県)
虎杖の花に月光届きけり
村上 愛子(今治市)
帰省子と校歌の山に登りけり
岡田 武夫(伊予市)

玉井 翠陽 選

みちのくの月夜は何にも無きごとく
本郷 和子(松山市)
海峡の影絵めきたる月の瀬戸
黒田 操(松山市)
柿供へ百十年忌子規祀る
原田 和子(松山市)

有光 令子 選

天国の門ついと過ぐ道をしへ
山崎 シマ子(松山市)
農継ぎて笛方となる盆踊
坂本 貞子(松山市)
一村を洗ひあげたる夕立かな
弓矢 登志子(松山市)
ひまはりの真つ正直な色ひらく
片山 絢子(松山市)
秋天や茶毘の煙のまつすぐに
熊田 信子(松山市)

上原 白水 選

○喜寿米寿卒寿白寿の踊りけり
榎部 天思(松山市)
地引網九月の海を絞り込む
藤原 十重(松山市)
秋日和わが子分からぬ母の笑み
河村 章(松山市)

宇和川 喬子 選

残り蚊の子規の遺影へゆらぎ出つ
柴田 恵美子(兵庫県)
被災地の出身ときく秋遍路
牛頭 満寿子(西予市)
天高し戦なき世の天守閣
岡本 恵女(松山市)

高岡 周子 選

母の髪洗ふ子の髪洗ふごとく
清水 寿子(八幡浜市)
暮し向き染しむ夜なべありにけり
横山 容子(西条市)
新涼や今切り出さる木の香
天野 滋子(松山市)

お問い合わせは、(敬)子規記念博物館
TEL 931 5566 FAX 934 3416